

しょう しん しょう めい
笑進笑明

<校訓>
・学ぶ力
・働く力
・正す力

平群中だより
編集者:吉迫隆志
NO.14
令和6年2月2日

2月「如月(きさらぎ)」がスタート!

<如月(きさらぎ)の意味>

- 「衣更着(きさらぎ)」:寒さのために衣を更に重ねて着る月という説。
- 「生更木(きさらぎ)」:春に向かって草木が芽吹き(めぶき)始めるという説。
- 「気更来(きさらぎ)」:気候が陽気に更に発達してくる時季という説。



『光の春』

昨日から、2月がスタートしました。2月の「如月(きさらぎ)」という意味には、上のような、いろいろな説があるのですね。確かに、今年は暖冬と言われながら、1月末頃は急に厳しい冷え込みになりました。寒さに衣(着物)をさらに重ねるとは、昔の人は上手に言ったものだと感心させられます。3日は「節分(せつぶん)」そして、4日は「立春(りっしゅん)」と、暦の上では“春の到来,,”ということになります。先日、公園を散歩をしながら、木々の先を見てみると、芽がふくらんできているのを発見することができました。そうなんです、一見(いっけん)寒そうな冬の樹の姿ですが、しっかりと先端には新しい芽(命のエネルギー)がやどり、本格的な春の開花において準備を始めています。自然や植物はすごいですね。

そして、日の出時刻は早く、日の入り時刻は遅くなっていき、太陽の出ている時間が毎日、2分ぐらいずつ長くなっています。それにともない、最終下校時間も17:00から17:30になりましたね。時間だけでなくお日さまの日射しも、だんだんと強くなっていき、日中の明るさが増していています。

さて、標題の「光の春」ですが、ある本を読んでいて目にとびこんできたフレーズをみなさんに紹介します。

ロシアでは、2月のことを「光の春」というそうです。上で書いたように太陽は時間や

強さがだんだん長く強くなっていることから“春は光からやってくる,,”とも言えます。「私たちの日本より、さらに冬の寒さが厳しいところで暮らすロシアの人々が春の訪れを心待ちにしている表現である。」と記されています。太陽の光は、冷え切った大地を温め、木々に新しい命を与えます。この自然の営みによって私たち人間もまた躍動感あふれるパワーをいただけると思います。

今、まさに能登半島地震で被災された方々にとっても、この“太陽の光,,”こそが、復興に向けての「光の春」となることを願いたいと思います。

突然ですが・・・『3年生、来週からいよいよ奈良県内の私立高校の入試が始まります。そして、週末には県外の私立高校入試、16日(金)からは奈良県公立高校の特色選抜入試へと続いていきます。それぞれ、各自の目標は異なりますが、今日まで準備してきた成果を遂に発揮する時がやって来しました。

ここまできたら、自分を信じて“合格,,”という切符をつかみ取ってくださいね!きっとできる。頑張れ!』

「光の春」太陽を見上げ、大きく背伸びをして、春に向かって突き進んでいこう!!



「赤い羽根共同募金」1/29~31

この活動で集められた募金は基本的に「自分の町を良くする活動」に使われます。この活動の歴史は古く、昭和22年(1947)から始められています。

- (例) ・不自由なお年寄りの方々に食べ物を届ける活動。
- ・障がいのある人が外へ出かける手助けをする活動。
- ・災害があったときに、被災された方々を助ける活動。

能登半島地震で被災された方々の復興への手助けが少しでもできないか・・・という思いを生徒会のみんなが呼びかけてくれ、たくさんの方々が協力してくれました。

みんなの気持ちも一緒に被災地へ届けたいです。

今後も、私たちが今できることを考え、行動に移せることを探し協力したいですね。

平群町や被災された方々の復興への、みなさんからの積極的な思いや協力があり、大変うれしい気持ちになりました。

